



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)による国費外国人留学生の卒業予定に与える影響測定及び陳情書

作成機関: 文部科学省国費留学生協会 (略: MSA)

提出先: 文部科学省

概要

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)並びに全世界におけるロックダウンなどの措置に伴う行動制限が国費外国人留学生の卒業予定や研究進捗に大きく影響しました。MSA は、現役国費外国人留学生が受けている影響を理解するために、当協会のメンバーに対し調査を実施いたしました。

全体的に、修士課程や博士課程プログラムに在籍する多くの国費外国人留学生が学業や研究を進めることにあたり、特定の装置・器具・施設へのアクセスが不可能になった問題や、データ収集に必要不可欠な海外現地調査が不可能になった問題など様々な障壁に直面しております。そこで、当協会が現役国費留学生を代表し、こういった特段の事情により予定通りに卒業ができない学生に対し、奨学金受給期間の延長支援を要請しております。本来進学に伴う延長を除き、奨学金受給期間の延長が不可能であることは承知の上ですが、非常事態による学生たちの事情をケース・バイ・ケースで対応して頂きたいと存じます。

また、当協会が実施した調査により、国費外国人留学生と文科省間のコミュニケーション・チェーン(架け橋役)を担う各大学などの留学生受け入れ機関が期待通りに機能していない可能性が高いことが判明しました。そこで、ケース・バイ・ケースの奨学金受給期間の延長に加え、現在のコミュニケーション・チェーン・システムの見直しを要請しております。

はじめに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)や、それに伴う行動制限が多くの国費外国人留学生(以下「MEXT 奨学生」)に影響をもたらすことが分かりました。具体的には、研究に必要とする特定の装置・器具・施設へのアクセス不可能問題や、データ収集に不可欠な国内外のフィールドワークが不可能になったという深刻な問題により、予定通りに研究を仕上げることができなくなってしまう。

多くのMEXT 奨学生が予定通りに研究を仕上げる事が出来ず、通常の奨学金受給期間中に卒業出来ないことが予想されております¹。その結果、奨学金を受けずに学業を続けるか、大学・大学院の中途退学するかの二択を迫られる恐れがあります。

当協会が特に懸念している点としては、文科省が用意して頂いたコロナ対策であるコロナ蔓延期間中の休学(Leave of Absence)という任意選択が多くの現役国費外国人留学生に知らされないことが挙げ

¹ 通常、文科省の奨学金は修士では2年間、博士では3年間支給されます。



られます。文科省の方から各大学に情報発信されていることを承知しておりますが、多くの大学の係の方がこれらの貴重な情報を効果的に現役国費外国人留学生に伝えていない可能性が高いです。現役の学生、特に研究を進めることにあたり、特定の器具・装置へのアクセスや現地調査によるデータ収集が必要不可欠な方々にとっては休学できる機会を見逃してしまうことを非常に残念に思っております。

コロナ・パンデミックによる国費外国人留学生の卒業予定に係る影響をよりよく理解するために、当協会が現役国費外国人留学生である当協会のメンバーに対し、調査を行いました。

調査データ収集

本調査はグーグル・フォームによるオンラインで実施され、令和2年9月15日から令和2年10月5日までの間に行われました (n=53)。調査内容(質問と選択オプション)を付録1にて添付致します。

回答者募集の呼びかけは主に当協会のフェイスブック・グループや当協会のニュース・レターにて実施期間中に行われました。調査への参加は任意であるため、回答者は自己選択により、新型コロナウイルス(COVID-19)や関連する措置に係る影響を受けている MEXT 奨学生である傾向にあります。

調査結果

本調査の回答者数が当協会のメンバーシップの極めて一部に過ぎないではありますが、かなりの数の MEXT 奨学生がコロナ・パンデミック中に困難に直面していることを調査結果により判明しました。

COVID-19 パンデミックの影響

回答者の最大のグループは社会科学(28.3%)、自然科学(26.4%)、工学(18.9%)、美術(13.2%)に属していることが分かりました。これらの学問を専攻している者は学業・研究を進める上では特定の装置・施設、または現地調査でのデータ収集が必要不可欠であることが原因だと考えられます。

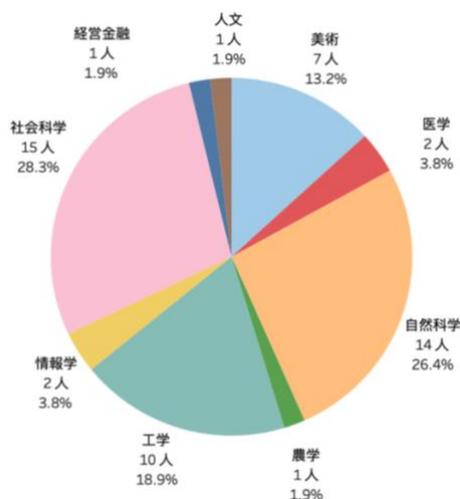


図1: 回答者が専攻している分野

それに応じて、過半数の回答者が研究室・アートスタジオの閉鎖や、渡航中止警告・行動制限が学業・研究活動を妨げる主な原因であると回答しました。また、一部の回答者によりますと、博士課程を取得する必須要件である海外学会での発表が渡航中止警告により、実行できないことが報告されました。これらの問題がもたらす影響は MEXT 奨学生に深刻な支障をもたらしていることが判明しました。本来の



研究プランが実行不可能になり、以前から進めた研究を破棄し、最初からやり直すことを余儀なくされた回答者も存在しております。

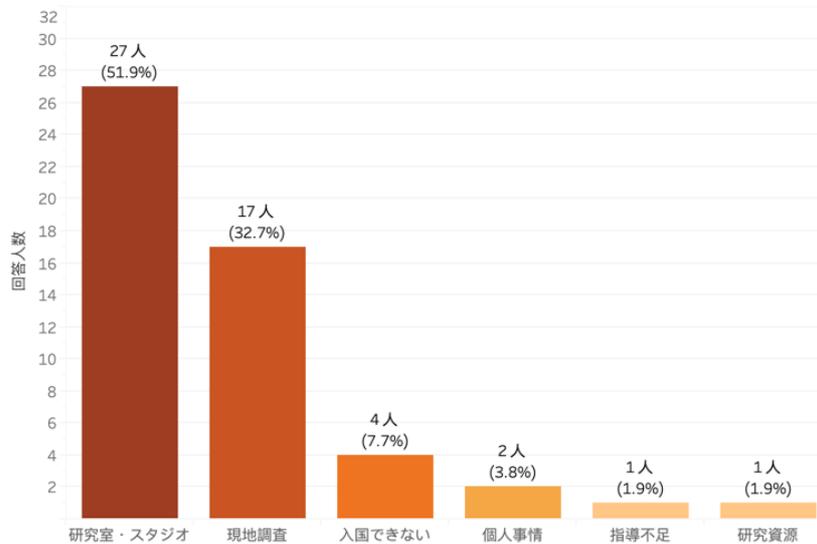


図2: 研究や卒業要件を満たすことにあたり、直面している問題

大学による情報伝達方法における問題発生(矛盾・情報の不一致)

また、7割(37人)の回答者によりますと、文科省が用意して頂いたコロナ対策であるコロナ蔓延期間中の休学(Leave of Absence)という任意選択の情報が受け入れ機関である大学側から知らされず、当協会によるコロナ対策関連情報発信が初耳であることが判明しました。

かなり多くの回答者がきちんとコロナ対策関連情報を知らされないという事実から、関連する機関の間に行われる情報伝達の不備が存在することを示しているのではないかと考えております。特に情報連鎖の長い現在の伝達方法ではとても起こり得ると言えます(文科省—大学・学部レベルの MEXT 奨学生担当者—MEXT 奨学生)。

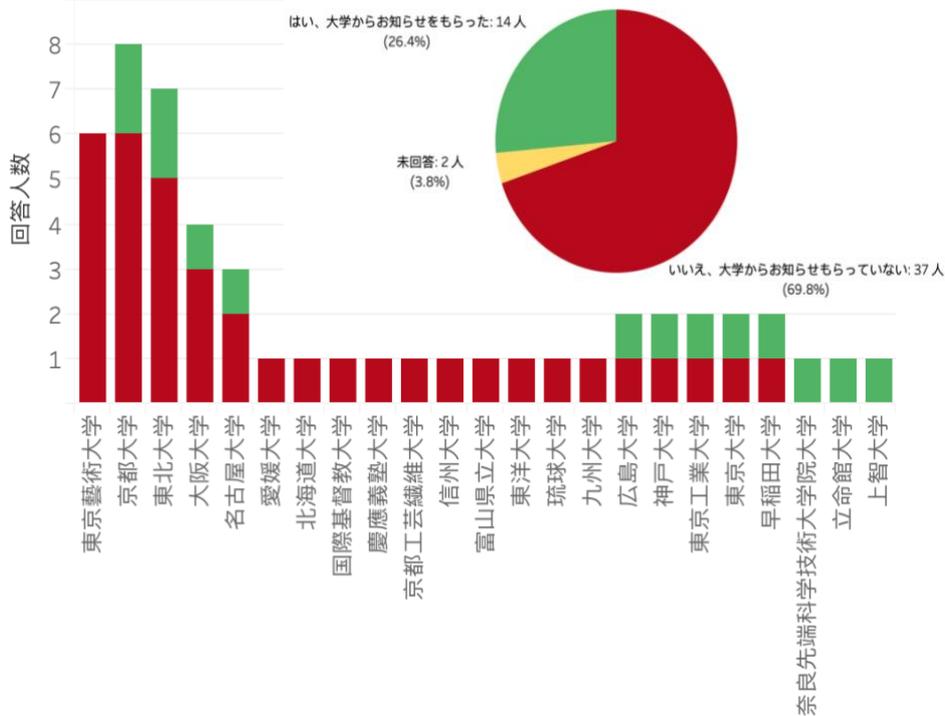


図3：回答者が属している大学やコロナ蔓延期間中に選択できる休学制度に関する情報の受け取りの有無

更に当協会が、コミュニケーション連鎖に起きている問題を検証するために、平成27年—令和1年の間に到着したMEXT奨学生が神戸とお台場で開催された国費外国人留学生歓迎会イベントへの招待を受け取っているかについて調査を行いました。図4で表示される通り、招待状をもらった者が過半数を占めているものの、約3割の回答者(64人)が歓迎会イベントの存在を知らされないことが判明しました²。これらの調査結果をもとに、現在の情報伝達システムに不備がある可能性が高く、文科省からの必要な情報がきちんとMEXT奨学生に伝達されていないということを強く恐れています。

必要・必須なサポートが欠けている

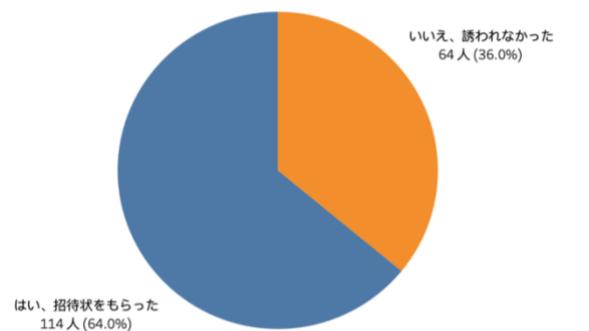


図4：文科省が主催で行われた国費外国人留学生歓迎会イベントへの招待状に関する受け取りの有無(対象者が平成27年—令和1年の間に到着した者のみ)

² 同じ大学でも担当部門・学部によって情報が届かないことは今回の他にも確認されています。例えば、MSAの前身の文科省主導で創立したMSEPという団体の初期運営メンバー招集は大学を通じて告知されていましたが、東京大学に経済学部・法学部で留学生に情報が届いたが、教養学部、文学部に招集が届かなかった事例もあります。



上記に述べた難点に対して、受け入れ機関である各大学が MEXT 奨学生に施しているサポート対応について伺いたところ、回答者が肯定的なフィードバックだけでなく、否定的なフィードバックも述べられました。

大学のサポートに関する肯定的なフィードバックには、次のものが含まれております。

- ゼミや授業などのオンライン化
- Wi-Fi アクセスの提供
- 卒業時期が接近している学生に対し優先的な実験室へのアクセス
- ブルームバーグ・データベースへの遠隔アクセス許可付与
- 状況に応じて大学側が最善を尽くしているというコメントもありました

大学のサポートに関する否定的なフィードバックやクレームには、次のものが含まれております。

- コロナによる勉学・研究期間が不本意に延長という主な問題は未解決のまま放置される
- 厳しい研究室の出入り時間制限が設けられるため、十分な研究時間の確保が難しい
- 一般学生に提供された経済的支援では MEXT 奨学生が対象外となってしまう
- 大学系の担当者も適している情報を把握していない
- 全くサポートの提供が行われていないというコメントもありました

提案事項

情報伝達方法の改善

こちらの調査で、大学・所属機関によって情報が伝達されているかのばらつきが大きいとわかりました。大学に情報伝達方法を改善するように働きかけることか、MEXT 奨学生に対して別の方法を用いた情報開示をするように、文科省のご理解とご対応を要請しております。

ケース・バイ・ケースによる一時的な奨学金受給期間の延長

コロナによる影響を激しく受けている MEXT 奨学生に対し、ケース・バイ・ケースの一時的な奨学金受給期間の延長申請機会のご検討について文科省のご理解とご検討を要請しております。特に卒業時期が接近している後期博士課程学生や、上記の情報伝達方法における問題発生によって休学申請ができなかった人や、渡航中止、行動制限による予定されていた研究を余儀なく中断せざるをえなかった学生にとっては奨学金受給機関の延長支援がとても貴重であると考えます。

卒業要件の再調整

現在一部の教育機関で設けられる卒業要件の一つである海外の学会発表をパンデミック中にクリアすることが非常に困難になっているため、各大学に向けてパンデミック中により適切な卒業要件の見直しを働きかけることは必要だと考えております。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で普段世界中に行われる学会イベント中止が相次いでおるため、学会発表への参加意欲が有るにもかかわらず、参加できない現役 MEXT 奨学生が多いと考えたからです。

結論



本来であれば、MEXT 奨学生の多くが予定通りに卒業し、社会人として日本経済や国際関係に貢献し始めたことを期待されたにもかかわらず、コロナの影響で現在学業・研究を仕上げ、卒業することが出来ないリスクに直面しております。

文科省の予算上の制約を考慮し、当協会の全ての要請を満たすことが非常に難しいであることを重々承知しております。しかし、多くの MEXT 奨学生が尽くした 2-3 年間分の努力(時間やリソース)を無駄にしないことは文科省や日本国の利益のためでもあるのではないかと当協会が信じております。コロナ蔓延期間中に苦しんでいる MEXT 奨学生に対する追加支援が日本の将来に向けた良い投資にもなると考えられます。



付録1 - 調査テンプレート

Question	Options
Nationality	
Age	
Gender	
What country are you currently in?	
University	
Grade:	
Field of Study (Arts/Medical/Social Science/Engineering/etc.)	
Does your research require highly specialised equipment e.g. medical labs, science labs, engineering equipment, agricultural equipment, wood/metal/ceramic/printmaking etc. equipment, music studios, video studios, digital imaging / x-ray / conservation equipment?	Yes and I could use it during spring semester Yes but I did not have access to this during spring semester due to the pandemic response / school closure No, my research does not require this Other (explain)
Does your research require local, national or international travel / access to public collections?	Yes and I had enough access during spring semester Yes but limits on travel or institutional closures prevented me conducting this research during spring semester No, my research does not require this Other (explain)
Why is your Masters/PhD affected by Covid-19? (Please explain in details)	
What steps did the University take to support you? Was it helpful?	
Did your School inform you that it was possible to take a leave of absence from your studies? (Link to document)	Yes / No
If you answered 「Yes」 to the the previous question, did you apply for a leave of absence?	Yes / No
Do you think you will need an extension for finishing your Masters/PhD?	Yes / No
Do you think your Professor will support your reason for extension?	Yes / No
Would you be interested in writing an appeal letter to the Ministry along with other affected students?	Yes / No Comments (if any)



Appendix B – その他の統計データ

南アジア	インド	7人 (13.2%)
	バングラデシュ	5人 (9.4%)
	パキスタン	1人 (1.9%)
	合計	13人 (24.5%)
ヨーロッパ	フランス	3人 (5.7%)
	ドイツ	2人 (3.8%)
	ギリシャ	2人 (3.8%)
	イギリス	2人 (3.8%)
	ベラルーシ	1人 (1.9%)
	合計	10人 (18.9%)
東南アジア	マレーシア	3人 (5.7%)
	インドネシア	2人 (3.8%)
	フィリピン	2人 (3.8%)
	シンガポール	1人 (1.9%)
	タイ	1人 (1.9%)
	ベトナム	1人 (1.9%)
	合計	10人 (18.9%)
南アメリカ	ブラジル	2人 (3.8%)
	ペルー	2人 (3.8%)
	アルゼンチン	1人 (1.9%)
	チリ	1人 (1.9%)
	エクアドル	1人 (1.9%)
	合計	7人 (13.2%)
中東	イスラエル	2人 (3.8%)
	ヨルダン	1人 (1.9%)
	レバノン	1人 (1.9%)
	合計	4人 (7.5%)
北アメリカ	カナダ	2人 (3.8%)
	メキシコ	1人 (1.9%)
	米国	1人 (1.9%)
	合計	4人 (7.5%)
アフリカ	エジプト	2人 (3.8%)
	アルジェリア	1人 (1.9%)
	合計	3人 (5.7%)
中央アジア	キルギスタン	1人 (1.9%)
	合計	1人 (1.9%)
オセアニア	ニュージーランド	1人 (1.9%)
	合計	1人 (1.9%)
総計		53人 (100.0%)